

学校便り

第303号
平成24年11月1日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

みんなちがって みんないい、みんなが認め合えれば もっといい

——「交流及び共同学習」の推進——

校長 鈴木 隆志

本校特別支援学級「わかば学級」は、練馬区立小学校にある15の特別支援学級固定級の一つで、開級から7年目となりました。現在5学級、37名（1年生4名、2年生4名、3年生4名、4年生8名、5年生11名、6年生6名）の“わかばっ子”が在籍しています。

わかば学級の教育目標は、「自分で考え学ぶ子供」「友達と仲良くする子供」「自分のことを自分ですすんでする子供」です。

毎日、毎時間の学習等の積み重ねによって、“わかばっ子”たちは、確実に成長を続けています。先月の軽井沢宿泊学習でも、自主（自分で考え学ぶ）、自立（自分のことを自分ですすんでする）と協調（友達と仲良くする）の姿が随所に見られました。

本校では、わかば学級と通常の学級との「交流及び共同学習」推進に積極的に取り組んでいます。「交流及び共同学習」とは、障害のある子供と障害のない子供と一緒に参加する活動において、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性をはぐくむことを目的とする交流の側面と、各教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面の両方の側面が一体としてあることを、より明確に表したものです。したがって、この二つの側面を分かちがたいものとしてとらえ、推進していく必要があります。先日の運動会でも、交流及び共同学習の成果が見られました。以下は保護者アンケートからの抜粋です。

- ・小規模学校でありながら、わかば学級との共同学習であることが当たり前のこととして企画・実行された、素晴らしい運動会だったと思います。
- ・わかば学級のお友達も一緒にできたのが、とてもよかったです。騎馬戦等も補助の先生に付き添われながら、立派に参加している姿に感動しました。
- ・わかばの子供たちも競技に加わることは、障害のある人のことを理解し、思いやる気持ちを育てるため、とてもよいことだと思いました。
- ・学年リレーにわかばの何人かが出られたのは、同じわかばの親だからかもしれませんが、とても嬉しかったです。
- ・年上の子供たちが思いやりがあり、よく気が付く姿が見られました。学校で、低学年から交流があると、思いやりが自然に身に付くのだろうと思います。
- ・毎年恒例の組体操は、今年も、通常の学級もわかば学級もそれぞれが歩み寄ろうと、練習のときから努力を重ねた結果が見られてよかったです。
- ・毎年、「わかば学級の先生って、こんなにいるんだ」と言ってしまうくらい、わかばのお子さんが目立っていましたが、今年はどうされたのでしょうか。人数が減ることはないでしょうから、とても頑張っていたんですね。言い方は失礼かもしれませんが、どこにわかばの子がいるのか、分からなかったです。他の子供たちも自然で、特に組体操は驚きました。私たち6年の親は担任の先生よりメンバー表をいただいておりますので、どのように絡むのか、楽しみでした。“飛行機”のとき、わかばの友達に、6年生が手招きして待ち構えている姿が何人も見え、そこへわかばの子が駆け寄り身をあずける姿に、心を打たれました。子供にわかばの友達のことを聞くと、それぞれの個性を理解しているようでした。分かっている、なかなか大人でもできません。相手を理解し受け入れて、お互い支え合う組体操の姿。このまま、その心をもち続け、大人になってほしいと思いました。特別支援学級の子と通常の学級の子が混ざって行事をする意義は、ここにあると実感しました。

交流及び共同学習は、わかば学級の子供たちにとっても、通常の学級の子供たちにとっても、かわりを通して「絆」を身に付けることのできる大切な学びの場です。どちらも同じ“光っ子”です。「絆」から「紡」へ、互いの心をつなげて、より高いステージを目指していきます。